

みおしえ



東北ゆかりの

名僧 金光上人



平成28年は金光上人の800年遠忌です。

埼玉教区浄土宗青年会

<http://www.saijousei.com>

身と口と 心のほかの 弥陀なれば

われきはなれて 唱へこそすれ

(法然上人二十五霊場第四番

如来院の御詠歌―法然上人御作―)

《意味》

阿弥陀様のお慈悲は、身と口と心で犯した罪を問わず救い給うのであります。

ただ「南無阿弥陀佛、南無阿弥陀佛」と称えるお念仏の声のみが、救いの頼りであります。阿弥陀様のお救いを信じてひたすらに真剣にお念仏なさいませ。

~~~~~  
今年は政界、芸能界等の騒動が立て続けに報道され色々な謝罪会見の仕方がありました。罪の意識があったかなかったかは本人のみぞ知るところですが、皆様はどう思われたでしょうか。「まったくけしからん。人として罪深い。しては

いけない事だ。」と思われた方が多いのではないのでしょうか。人は他の方の事をよく「ああだ、こうだ」と評論しますが、自分についてはいかがですか。お釈迦さまが残された教えの中で、「五戒」というものがあります。どこかで聞いたことがあると思います。それはというと、

- ① 不殺生(ふせつしよう・生命のあるものを殺さない)
- ② 不偷盗(ふちゅうとう・与えられないものを取らない)
- ③ 不邪淫(ふじゃいん・みだらな男女関係を結ばない)
- ④ 不妄語(ふもうご・いつわりを語らない)
- ⑤ 不飲酒(ふおんじゅ・酒類を飲まない)

の五つを言います。いかがでしょうか。守ろうと思ってもなかなか守ることが出来ないのが我々人間です。特に現代社会を生き抜く私たちにとつては難しい教えです。

例えば、不殺生について。皆さんは、「私は何も殺めてなんかいないですよ。」と言われるかもしれませぬ。ですが食卓を思い浮かべて下さい。一匹の焼き魚がでるとしましょう。その魚は自分より小さな魚を食べ、その魚ももっと小さな魚を食べ、その魚も大量のプランクトンを食べ、命を

受け継いできました。その魚達の命を私達は頂き、直接ではないけれど、間接的に殺生をしているのです。お肉にしる、お刺身にしる、もとは一つの命。蚊など害虫駆除も同様、私たちは生きるために何かの命を奪っているのですから、殺生をしていない人はこの世には、誰一人としていないのです。

加えて、冒頭にあげた各界の騒動。最初は魔がさした小さな嘘であったのかもしれませんが。しかしそれが大きな問題になり、誰かを傷つける結果となってしまうました。不妄語に通じるものがありますね。ですが、これは他人事ではなく、私たちでも何気ない小さな嘘が誰かを傷つけているかもしれません。また、つつい良かれと思つてつく「嘘」なども口から出る罪なのです。罪を犯し易い我が身、もう既に犯している我が身なのです。身で行う罪、口で行う罪、心で思う罪、これらの行いは、仏教ではことごとく地獄行きの行いであると教えられています。怖いですね。

しかし、そんな私達だからこそ、心の底から懺悔(さんげ)の気持ちをもって「なむあみだぶな

むあみだぶ」と称えれば、犯した罪の軽重を問わずに、阿弥陀様のお慈悲により全てお救い頂けます。だからと言って何でも悪いことをして構わないという訳ではありません。今一度自分を見つめ直し、自分は何事もままならない人間であると自覚しつつも、日々多くの恵みへの感謝と懺悔の念を持ち、健やかに生活が行っていけるようお念仏を共にお称えしていきましょう。阿弥陀様はいつでも、あなたのお傍で見守っていて下さいます。

合掌

執筆 西雲寺 室田 円道



# 表紙の解説 金光上人（こんこうしょうにん）

久寿元年生（一一五四年）〜建保五年没（一二二七年）。鎌倉時代初期の僧侶であり、九州石垣（現福岡県久留米市）出身。詳しい伝歴は不明ですが、はじめは福岡の寺院で学び、その後比叡山で天台を学んでいました。建久年間に地元の寺院復興のため、鎌倉に来て所領の件で幕府へ訴訟した際、京都から布教に来ていた法然上人の弟子の安楽に会い、浄土教の教えを聞いて法然上人に帰依し、弟子になりました。やがて正治元年（一二〇〇年）頃から法然上人が、布教のため門弟を各国に派遣したのを機に、東北地方での念仏信仰を広めていきました。その様子をあらわす一説があります。金光上人の夢に法然上人が出てきて、津軽の阿弥陀川で阿弥陀如来像に逢うだろうというお告げをされました。その通り阿弥陀川から阿弥陀如来像を拾い上げ、この地域での念仏信仰を広めることにつながりました。そしてこの阿弥陀様は、弘前市の浄土宗西光寺に現存しています。

法然上人が存命中、門弟達がもし上人が御往生されたのち浄土の法門についてどなたに問えば良いのかと質問をすると、聖光上人が金光上人であろうと答えられたという文献が残っています。このことから法然上人門下の中でも高弟の一人として今に伝わっています。

解説執筆 浄国寺 川端信行

合掌

## 私たちの宗旨

名称

浄土宗  
じょうどしじゅう

宗祖

法然上人〔源空〕  
ほうねんしやうにん 「げんくう」  
（一一三三年〜一二二二年）

宗紋

月影杏葉の紋  
つきかげぎやう

開宗

承安五年（一二七五年）  
じやうあん

ご本尊

阿弥陀佛  
あみだぶつ

称名

南無阿弥陀佛  
なむあみだぶつ

教え

阿弥陀佛の平等のお慈悲を信じ

南無阿弥陀佛とみ名を称えて人格を高め  
社会の為につくし明るく安らかな毎日を送り

往生（西方極楽浄土に生まれること）を願う  
さいほうごくらくじやうど  
信仰です

經典

お釈迦様が説かれた無量寿経、観無量寿経、  
むりやうじゆきやう かんむりやうじゆきやう

阿弥陀経の三部経をよりどころとします。



発行 埼玉教区浄土宗青年会

会 長大和助教仁

広報編集局長 室田円道

無断複写を禁止します